



共同研究プロジェクト

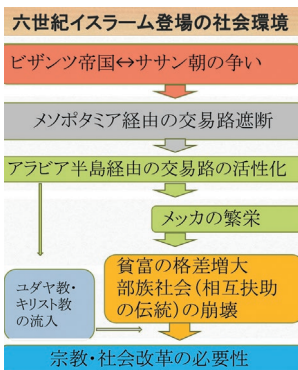
ムハンマドを含めた聖人研究の展望

道徳科学研究所 研究員
共同研究代表者

アブドゥラシイテイ アブドゥラテイフ

二十世紀初頭まで、日本はイスラーム世界との接触がほとんどなかったため、イスラーム研究は進みませんでした。そのため

廣池千九郎博士は、当時、日本におけるイスラーム理解は不十分であるため、イスラームおよび預言者・ムハンマド(マホメット)を『道徳科学の論文』で取り上げないと判断しました。廣池博士は「これまでの日本においてはマホメットの事跡を研究することは不便でありましたから」と述べ、イスラームに関する研究を「私の研究室において引き続き後日に研究の出来たときに



出典：『ニューステージ 世界史詳覧』(浜島書店・2020)

その詳細を発表いたします」と後進に託しました(新版『道徳科学の論

文』⑤四〜五頁)。

廣池博士の負託を受けて研究を推進

道徳科学研究所では、廣池博士からの負託を受けて、これまで大塚真三氏(麗澤大学教授)、谷口茂氏(麗澤大学名誉教授)、保坂俊司氏(中央大学教授)らがイスラーム研究に取り組み、その成果を発表してきました。また服部英二氏(元研究センター顧問)やイスラーム研究者の片倉もとこ氏を招いての講演会などを開催してきました。

二〇五〇年の世界予測人口は、全人口の三分の一をイスラーム教徒が占めると言われています。現に二〇一八年には国内のイスラーム教徒が約二十万人と推計され、コロナ禍前には年間の観光客が百万人を超えました。皆さんの日常生活においても、今後、日本とイスラーム世界との接触は、増えることはあっても減ることはないと思

ます。その際に予備知識があれば交流が深き、相互理解も深まるのではないのでしょうか。そのために、令和元年より「教育・学習支援共同研究」の一環として、「ムハンマドを含めた聖人研究」というプロジェクトを立ち上げ、これまでの研究成果を受け継ぎ、イスラーム研究を進めてまいりました。

現在は、竹内啓二(道徳科学研究所客員教授、比較思想)、田島忠篤(同客員教授、宗教学)、藤原達也(麗澤大学非常勤講師、経営学・ハラル経済)、アブドゥラシイテイ アブドゥラテイフ(国際社会学)の四名が、各専門の視点からイスラーム研究を進め、その成果を小冊子として刊行していく予定です。

イスラーム世界の理解を深めることは、廣池千九郎博士がめざした世界の安心・平和・幸福の実現に向けた重要な過程であると考え、研究を推進してまいります。